

# 支援部だより

No. 9

令和7年 1月 17日  
宮城県立金成支援学校  
支 援 部

## 居住地校学習アンケート 御協力ありがとうございました

宮城県の「居住地校学習推進事業」を受け実施した居住地校学習では、様々な御配慮をいただきありがとうございました。本校では「自分が生活する地域の同年代の友達と一緒に活動することに慣れ、地域生活の基盤を作る」というねらいの下、取り組んで参りました。本年度は、同年代の友達と関わる経験の少ない本校の児童生徒たちが直接交流を行い、居住地校の皆さんと共に学ぶことができる貴重な機会を得ることができました。心より感謝申し上げます。

居住地校学習のアンケート結果についてまとめましたので、お知らせします。来年度、この貴重な御意見を役立てていきたいと思っております。

名 称：「居住地校学習アンケート」回収率100%

対 象：令和6年度実施校担当者（小学校8校、中学校4校）（本校小・中学部）

実施回数：小学部10回、中学部6回

本校参加児童生徒数：小学部12人、中学部4人（1名欠席）

Q1 本年度、どのような活動をしましたか？

○受入校：特別活動、自立活動、生活単元学習、教科、総合的な学習の時間

○本 校：特別活動、自立活動、生活単元学習、教科、遊びの指導

Q2 児童・生徒の様子はいかがでしたか？

○受入校

- ・子供たちは、久しぶりに会えることを楽しみにしていました。実施後、子供たちから「またやりたいです。」「今度はいつですか。」などの声が挙がっていました。子供たちは交流を楽しみにし、喜んでもらいたいという気持ちでした。（小）
- ・ほかの学校で一生懸命頑張っている6年生がいるという学びにつなげることができ、子供たちも実感しました。誰に対しても平等な目で優しく接することの大切さを再確認しました。（小）
- ・昨年度の支援学校への訪問により、子供たちは名前を知っていました。違う学校だとしても、同じ5年生の友達として声を掛け、ハイタッチをするなどして関わっていました。（小）
- ・1回目は打ち解けるのに時間が掛かりましたが、2回目はすぐに仲良く活動できました。（小）
- ・何度か回数を重ねているので、来校を楽しみにしていました。教師が言わなくても、「お見送りする。」と子

供たちが集まって手を振りました。(小)

- ・昨年度まで在籍していた児童なので、どちらもスムーズに受け入れて活動することができました。(小)
- ・支援学校に兄弟がいたので、一緒に活動することを楽しみにしていました。(小)
- ・両校の児童たちの昨年からの成長が見られたので、とても良かった。(小)
- ・初めは本校の生徒がどんな対応をするのか心配でしたが、先生方の働き掛けで楽しく穏やかに交流することができました。(中)
- ・緊張していましたが、楽しんだようでした。(中)
- ・運動を行っている中で、勝ち負けにこだわってしまい口調が強くなってしまったときがありました。(中)
- ・交流の日に向けてどの生徒も準備に意欲的に取り組みました。支援学校の生徒さんの自己紹介の発表にとても興味を持ったようでした。(中)

### Q3 実施して感じたことや今後の課題は何ですか？

- ・ようやく仲良くなった頃、その後の活動がなく、深いつながりを作るのが難しいと思った。(小)
- ・体調面を考えると、全身を使う運動は涼しい時期に行えると良い。(小)
- ・回数を増やしても良い。(小)
- ・打合せの日から間が空いてしまった。事前にすり合わせをできたら良い。(小)(中)
- ・引継ぎをきちんとしたい。(中)
- ・体を動かす交流を1時間入れた方が良い。(中)
- ・人数の増加による日程調整は今後も大変かと思われる。(支)

### 本校保護者の感想など

- ・多くの児童生徒さんが歓迎してくれたので、うれしかった。
- ・我が子の成長が感じられてうれしかった。交流学級からのメッセージを読んで、「楽しかった」「よかった」という気持ちが伝わってきてうれしかった。
- ・緊張しながら校舎に向かう様子に少し動揺しているように見えたが、活動の様子を見守っていく中で安どした表情に変わった。
- ・友達と関わる様子を見て満足だった。
- ・交流校に知っている児童がいてうれしそうな様子だった。
- ・汗だくになるくらいかなり楽しんできたようだとの日の連絡帳に記載があった。

本年度は、希望者の全員が直接交流を行い、12月初旬までに居住地校学習を終えることができました。特に、本校に転学したり、地元の園や学校から入学したりした児童生徒にとっては、久しぶりの友達との再会で、笑顔で活動することができました。子供たちは将来、地域で生活します。この事業をきっかけとして同年代の子供たちやそれを取り巻く大人たちとのつながり、地域に根ざした基盤作りをさせていただくことで、全ての子供たちのより良い将来につながっていくと思われまますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。